

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	平成30年度瑞穂町子ども・子育て会議（第1回）
開 催 日 時	平成30年10月29日（月）午後6時30分から午後8時20分まで
出席者及び 欠 席 者	【出席者】委員12名、事務局4名、調査委託会社担当者2名 合計18名 【欠席者】0名
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 報告事項 なし。</p> <p>4 協議事項 （1）第2期子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について （2）子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等管理票について （3）子ども・子育て会議スケジュールについて（予定）</p> <p>5 情報交換</p> <p>6 閉 会</p>
傍 聴 者	0名
配 布 資 料	<p>事前配布 （1）平成30年度瑞穂町子ども・子育て支援事業進捗状況等管理票 （計画の基本的事項・計画の体系） （2）第2期瑞穂町子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ 調査票（案）（未就学児保護者用・小学生保護者用）</p> <p>持参資料 瑞穂町子ども・子育て支援事業計画</p> <p>当日配布 （1）会議（第1回） 次第 （2）会議委員 名簿 （3）子ども・子育て会議スケジュール（資料1） （4）瑞穂町子育て応援ガイドブック</p>
会 議 内 容 （主な意見等 を原則として 発言順に記 載。）	<p>1 開 会 事務局から、事前・当日配布資料の確認。 会議に際し、定足数に達しているため成立したことを確認。</p> <p>2 あいさつ 子育て応援課長からあいさつ 2月開催の前回会議では今年度の会議を5回開催予定としていたが、ニーズ調査について国からの通知が9月初めであったことから、例年通りの10月開催となった。 今年4月、福祉課から子育て部門を分けて子育て応援課に、児童係が子育て</p>

て支援係と保育・幼稚園係になった。児童館係、子ども家庭支援センター係と合わせると4つの係になる。これにより、事務局の担当は子育て支援係に引き継がれた。

3 報告事項

なし。

4 協議事項

(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画策定に伴うニーズ調査について

○事務局から調査委託会社担当者の紹介および説明。

○第2期支援事業計画とニーズ調査についての概要説明。

子ども・子育て支援事業計画は5年を1期としており、平成31年度で現行の支援事業計画が終了する。平成32年度から第2期支援事業計画を実施するにあたり、今年度に計画策定に伴う量の見込みを算出するためのニーズ調査を実施し、平成31年度に策定を行う。

量の見込み算出等の考え方について、平成26年度ニーズ調査に示した手引きを基本にすると国から提示があった。設問は事務局と委託業者で設定し、前回の国モデル調査票、5年前実施の瑞穂町ニーズ調査票、他市調査票を参考にした。

○ニーズ調査の対象者及び日程（予定）の説明。

調査票の対象者は平成30年10月24日までに住民基本台帳に登録のある0歳から12歳の児童。未就学児保護者1,140名、小学生保護者833名の予定。

調査票は対象児童のいる家庭一世帯に1通送付し、複数の未就学児がいる家庭には一番下の年齢の児童宛に送付する。小学生がいる世帯も同様だが、未就学児世帯は全世帯に送付するため、重複しないように小学生のみがいる世帯の一番下の児童宛に送付する。

印刷と発送準備は11月初旬、発送予定は11月20日頃、投函期日は12月15日（土）を目安に回答を依頼する。集計は1月から開始し、調査結果報告書は3月下旬までに作成する予定。

○ニーズ調査票の事前送付後に出た修正点の確認。

未就学児調査票及び小学生調査票の修正点を確認。

○ニーズ調査票について。

(委員)

修正したものを送付してほしい。

(事務局)

修正と、今回の会議内容を反映したものを送付する。

(委員)

子育てほっとブックとは本日配布の子育て応援ガイドブックのことか。

(事務局)

子育て応援ガイドブックは他部署が作成したもので、ほっとブックとは異なる。ほっとブックは毎年度作成し、児童手当等や窓口に申請等に来庁された方に配布しているもの。

(委員)

ホームページ「子育て・教育」のボタンから見られるとあるが、実際見られない。

(事務局)

現在作成しており、アンケートが配布されるまでに掲載する。

(委員)

未就学児調査票の母親の就労状況について、正社員は「フルタイム」だが、時間短縮勤務をしている場合は「フルタイム」と「パート・アルバイト等」のどちらに該当か。

(事務局)

正社員かつフルタイムで雇用されている場合は、時間短縮勤務取得の場合でも、「フルタイム」に該当する。

(委員)

8時間程度の就労という記載では、6時間勤務でもパート・アルバイトではない場合はどちらを選択するか迷うため、そのような記載があると分かりやすい。

時間についての回答は、5時間半(5.5時間)という場合、四捨五入か切り捨てか記入例があるといい。

(事務局)

修正する。

(委員)

ほっとブックはQRコードがあるとアクセスしやすい。

小学生調査票の「放課後子ども教室」についての説明は、この文言では瑞穂町の現状とは合わず、「放課後の安心安全な居場所づくりをしている事業です。」としたほうが、現状に近い。

未就学児を連れてきた母親は非常に時間がないため、今回のアンケートもどれくらい回収できるのか不安。第1期の回収率はどうだったのか。

(事務局)

未就学児は配布数1,243件、回収547件、回収率44%。

小学生は配布数1,000件、回収479件、回収率47.9%。

全体回収率45.7%。

(委員)

子どもが小さいときに必要なのは、横になれる時間や椅子に落ち着いて座れる時間であり、その時間にアンケートに回答するのは負担が大きい。そのことも踏まえて作成しないと回収率も上がらないのではないかと。たとえば、保育園、幼稚園、子育て広場、児童館等、母親が集まる場所で回答してもらえるように声掛けをしたり、回答している間だけ子どもを預かってもらえるような場を設けるなど、回答できる時間・場所を提供すれば回収率が上がるのではないかと。

また、回答の対象者でなくても回答してもらえたら、配布してもいいと思う。

(会長)

アンケートは公平性・無作為であることが必要であり、44%という回収率は悪くないと思う。負担ではあるが、回収率が他区市町村と比べて突出して悪いのであれば対応が必要だが、瑞穂町だけ違う方法をとることが許されているのだろうか。

(課長)

全国レベルの調査で数量を見込むものであるため、瑞穂町だけ特別な方法をとることは難しい。お礼状に提出を促す文言は記載している。

国の指針が出ているため、負担はあるが回答にご協力いただきたい。「〇〇さんの保護者様」と氏名を記載して郵送するため、その場で回答する方法をとることはできない。

(委員)

回収率は低いと思う。また、回答していないから興味・意識がないというわけではなく、回答したくても回答できない状況の人もいることを考えてほしい。

(委員)

アンケートが記入しにくい。指示番号によって確認に戻ることがあり、続けて回答ができず途中で面倒になってしまう方もいるのではないかと。

アンケートは費用をかけて作成・実施するため、7割程度の回収を目指し工夫するべきではないだろうか。

回答によって実現・改善された部分等の記載があると、回答しようと思ってもらえることができ、呼びかけの際にも伝えることで回収率も変わるのではないかと。

未就学児の「町内で実施している類似の事業」とは、何を指すのか分からない。
小学生の「ファミリー・サポート・センター」の部分は、センターでは預からないため、「提供会員宅」や「預かりサービス利用等」に変えたほうがいい。

母親たちは受け身になっているため、町で協働を進めているのであれば、要望を聞くだけでなく、母親たちが主体となるうえで必要な支援を聞くような設問を設けてみてはどうか。母親たちに取り組んでもらえることを拾い出し、広げていくことができる。

(事務局)

ニーズ調査の目的は、支援事業計画を策定するための数を見込むことであり、施策より実情を回答してもらうことが必要である。前回である5年前に実施したニーズ調査は国の手引きとモデルアンケートに沿っており、今回はそれに追加し、設問を分かりやすい文言に改善した。

回収率が向上し、実情に近い形で数字が出せれば理想的だが、前は高い回収率である。子育てで忙しい中、ボリュームのあるアンケートを回答しなければならず、回答しても実現しないのではないかという思いがあるのも承知している。しかし、全国的に行う支援事業計画策定にあたっての現状を、量で聞くようにという国からの手引きに基づき質問を設定しているので了承していただきたい。

(委員)

国からきているということは、どこの市町村もこのような形なのか。

(事務局)

全都道府県の各全自治体がこれから開始する。

(委員)

アンケートに記載の調査目的や計画等について、会議に参加していれば理解できるが、突然送付された方にとっては理解するのは難しい。国指示の全国統一のアンケートという趣旨は分かるが、文言だけでも平易な言葉にできないか。

また、回答によって次年度予算が検討される等、何が検討されるのか記載があれば自分に関係があるから回答しようと思う方も出ると思う。このようなアンケートは、ボリュームも多く途中で面倒に感じてしまうため、最後までモチベーションが維持できるような文言に変更することもできるのではないか。

(委員)

必ず入れなければならない文言であれば裏表紙へ移動させ、次のページをめくってもらえるように、第1期ではどうなったのかというもの等を入れるといいのではないか。

(委員)

「ご記入にあたってのお願い」は回答する前に読んでもらえればよく、表紙に

入れる必要はない。

(委員)

アンケート内容が良いものでも、手に取ってもらわなければ意味がない。

(委員)

本当にサービスを必要としている人は回答する時間がないと思う。回収率の低さも問題だが、情報の精度に重きを置いてもいいのではないか。

(会長)

ここまでの意見を踏まえて、改善等できそうなものはあるか。

(事務局)

文言について、回答しようと思ってもらえるように改善する。

(委員)

委員たちは会議に出席し、40代・50代と様々な経験があり、今回のアンケートのようなものを読む機会もある。20代・30代、特に未就学児の母親に多い20代は、公共の施設とはどこまでがそれにあたるのかという判断も難しい。様々なPRも難しい言葉が使われ、分からなくても質問もしないことから結局PRになっていないことが多い。分からないことを同居している自分の親に聞くことがあるが、親と同居している世帯も少ないため、自分で理解して進められるような内容にしてほしい。

(会長)

今回の会議で答えは出ないと思うが、意見を踏まえて可能な部分の訂正をし、結果を報告してもらいたい。期日があるため今回はこの内容で承認していただき、要望があったことを瑞穂町からあげるといった作業をして、第3期に吸い上げてもらえればと思う。

(委員)

投函日は決定しており変更することはできないのか。

(事務局)

決定ではなく予定日であり、年内に集計するために出した日にちである。

(委員)

指示通りにアンケートを実施するのではなく、一人でも多く現場の声を拾い、良いパイプで上手く伝えて一歩でも前に進んでもらえればと思う。

(会長)

細かい言葉などは改善できると思うが、大きく様式を変えるところまでは今回は難しいということを了承してもらえればと思う。

(委員)

幼稚園、保育園を經由してアンケート回収してはどうか。封筒に入れて見えな

いようにし、先生が保護者に提出を促して回収すれば、在園なら回収できる。

(委員)

他の組織に所属する人たちも同様に回収してもらえばいいのではないか。

(委員)

園で回収した方が、保護者は提出すると思う。

(委員)

その方法が一番早い。若い人を対象に言えば、紙ではなくスマートフォンでアンケートを取ることも方法の一つだと思う。全国的なものだから瑞穂町独自ではできないと思うが、テレホンカードをつけるなどすることで回収率はとてもよくなるのではないか。

第3期も同様だと思うので、もし次回に向けて考えるのであれば、今回の内容をしっかり記録し、実現できないか検討した方がいいと思う。

(会長)

回収の仕方についても、検討したほうがいい。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等管理票について

○事務局から、進捗状況等管理票の作成について説明。

計画の進捗状況等管理表の作成について、10月10日を期限に担当部署各課へ回答依頼、回答のうち不明点等を事務局で確認し追加等を行った。10月23日付で事前配布として各委員へ送付した。

○保育・幼稚園係長から計画の基本的事項について説明。

基本的事項について説明。

○計画の基本的事項について。

(委員)

学童保育定員は30年1月末では、1年生から4年生が376名、5、6年生が20名の合計396名だが、定員が減少したのか。

(事務局)

定員の確保策として計画の数字である351名とした方がいいだろうということで、今回計画の数字に変更した。

実際の学童保育クラブの枠は、2割増しで受け入れているため396名となっているが、定員は331名。目標は351名という枠を広げるということだったが、実際は2割増しの396名を入所可能として受け入れているため、目標の351名を記載した。

(委員)

入所可能というのはどういうことか。

(事務局)

定員の2割増しで受け入れているということである。

(委員)

平成28年9月のものも、351名となっているが、戻ったということか。

(事務局)

3小の学童保育クラブが建設されるなど定員が変動しているが、当初の目標が1年生から4年生が351名、5、6年生が20名ということで実際は設定されている。また、サマー学童等があり、5、6年生の入所は非常に少ない一桁というところもあるが、定員の確保策ということで目標との比較という部分もあり、記載している。

(委員)

サマー学童クラブの今年度の利用者はどのくらいいたのか。

(事務局)

合計42人。各学童保育クラブは10人を定員としている。3小学童は10名だが、通常定員が空いていたため11人が入ったという実績になっている。

(委員)

サマー学童は、前回のアンケートで夏休みだけ預かってほしいという意見があり、検討を重ねて実施に至ったというものだったかと思う。

(事務局)

今回は学童に通っている児童を対象に案内したが、来年度に向けては、しおりや広報等で案内し、広く周知して実施したいと考えている。

○事務局から計画の体系について説明。

(会長)

次は体系の方に入らせていただく。5つ節があるため、第1、2節を説明の後に質疑・応答、第3節の後に質疑・応答、第4、5節の後に質疑・応答の3に分けて進めさせていただく。

(事務局)

基本的事項及び体系とも、追記や変更の箇所は赤字で記載している。その中でも特に変更のあった箇所を説明。

第1、2節について説明。

(委員)

「一時預かりの拡充」で南平保育園でも実施ということだが、現在、急遽子ども

もを預けたいというような場合に対応できる状況か。

(事務局)

実際に南平保育園で始めているが、満員というところもあり、現状では石畑保育園に専用室があるため、未就園児の場合は石畑保育園を案内している。

(委員)

空きはあるのか。

(事務局)

日によるところもあるが、現在は十分空きがある。しかし、年度末に0歳が増えて待機児童が増加してくると、それも満員になるという状況である。

(委員)

子育て応援課で保育園の手続き等をし、必要な書類を保育園に提出すると書類不足であったため、再度役場に行かなければならなかったという話を聞いたので、しっかり対応してほしい。

(委員)

父親学級ということで、母親だけではないという風潮はいい流れだと思う。最近では祖父母に向けてのものもできたようだ。育児の対応は変わってきており、たとえば虫歯について、最近の母親は虫歯に3歳まで全く触れられなければその後も耐性がつくというのが常識的な通念であるが、祖父母は離乳食を嚙んで食べさせたりする。ジェネレーションギャップがあり、育児のトレンドは年代ごとに変わってきていることから、祖父母向けの教室があるといい。

(委員)

サービスのむらを解消するために、提出書類の一覧をフォーマット等で示すというのを部課で統一したり、QRコードで母親が読み取ると、画像付きで記入方法を見ることができるなど、問い合わせなくてもスマートフォンで解決できるような仕組みができればいいのではないか。

(委員)

人によって複雑な手続きもあり、1回で済まないこともあるのではないか。

(課長)

職員の対応についてはしっかりと徹底していく。詳細が書かれているものは、子育てほっとブックや保育園の入園のしおりがある。職員はそれをしっかり覚えてPRや説明をするということになっているが、そこは十分徹底していきたい。

祖父母向けの教室等も、実施している自治体は、教室ではないが、手引書などを作成しているところもあるようなので、参考にしていきたいと思う。

(事務局)

第3節について説明。

(委員)

「不登校児童・生徒への支援」で、「子ども家庭支援センターでは、不登校の要素を含む相談について、家庭訪問等アウトリーチを実施」とある。現在、子ども家庭支援センターは相談業務も多くなり、手が足りないという状況も理解している。不登校になる理由は、以前はいじめが大きな原因の一つであったが、現在は多様化し、難しい状況にあるが、家庭訪問等アウトリーチする中で実際どのような効果や改善があるのか。

「放課後子ども教室」の充実」で、アンケートにも記載があったが、瑞穂町の放課後子ども教室で行われている内容は以前では体験や様々な社会教育的な事業があったが、現在はパソコン教室が主になっており、体験などは行われているのか。パソコン教室のような学習的なものだけの実施であるなら、アンケートの文言も変更しなければならないのではないかと感じる。

ジュニアリーダーの養成について、目的が明確でないと感じる。何のために養成講座をしているのか疑問があり、ジュニアリーダーとして養成された子どもたちはこの後どうなっているのか、また何を目指して行くのか、しっかりと社会教育課に確認してもらいたい。養成講座を受講し、ジュニアリーダーになったというだけでは、何のために養成しているのか分かりづらい。普通の授業でいいのではないかと感じるため、聞いて答えを出してもらいたい。

(会長)

不登校についてアウトリーチ等の効果、放課後子ども教室の内容、ジュニアリーダー養成の目的について回答し、ここでの回答が難しければいつ頃回答するのか。

(課長)

不登校関係は、基本的にはまずその学校で対応していただき、そこで複雑な関係等があったら子ども家庭支援センターが行き、具体的に面談等をしている。どのような案件で、どのように行っているということは回答できない。

(事務局)

放課後子ども教室は児童館係で担当していたが、4月から保育・幼稚園係で学童と合わせて担当するようになり、2種類実施している。パソコン教室は登録制で、欠席する場合に連絡するようにしており、工作も行っている。随時申し込んでもらい、学童保育の児童も学童保育で申込をすれば参加できる。科学教室やスラックラインなど、回数を増やそうと検討している。今度、実行委員会があるので自身も参加させていただき、ボランティアが集まらないこと、実施方法や学童との関係も含めてパイプを太くして放課後の居場所づくりをしていきたいと考えている。

(委員)

各学校単位ではなく、たとえば児童館で呼びかけて、申込制にして実施する場合もあるということか。

(事務局)

たとえば前回実施したように、2小の1年生が対象ということで科学教室を二小で実施する、といった方法をとっている。改善の余地があると思う。

(委員)

科学教室とは、科学で遊ぼうというケーブルテレビ主催のもので、毎月小学校を回り、大学講師が授業を行う。児童を集めるために、放課後子ども教室がチラシをおいて対象学年、学童というので参加している。普段は各コーディネーターで異なるが、3小では学校が終わった後の1時間、1年生から3年生はその時間に宿題、テーマ工作、自由工作をする。4年生から6年生はパソコンルームでパソコン、テーマ工作。1時間をどのように使うかは自分次第で、タイムマネジメントも含めて好きなように時間が使えるような形をとっている。国の施策としては、放課後に家ではできない体験の提供、居場所の確保である。

学童に預けるのは、外で遊ぶことを心配する親や働いている親などばかりでなく、放課後に安心できる場ということで預けている。そのような意味で回数が整備できておらず、事務局から明確な説明がない状況でボランティアがスタッフをしているため、増やそうとするときには足並みがそろわない。今回実行委員の会議があるが、回数を増やしたいという事務局の思いを現場のスタッフに伝わるようにして、増やしていこうと進めている。

(課長)

ジュニアリーダーの養成は、担当課によく確認する。

(委員)

「放課後子ども総合プランの推進」について、平成30年度連携事業1回実施とは、どんな事業をしたか。

「地域における人材の育成・活用」について、今年度は登録及び活用実績も無い状況とある。課題が周知方法の模索とあるが、コミセンまつりや子どもフェスティバル等のイベントで、そのような人たちが活躍できるブースをつくり披露してもらおう等、町がバックアップして周知していくことで、今度子ども会に来てもらおうといったことにつなげやすいと思う。いい人材があるのだから、場を設けて周知していく方法を検討してもらいたい。

(事務局)

放課後子ども総合プランで連携事業ということで、科学教室を2回実施。放課後の居場所づくりという面では、学童も放課後子ども教室も必要と考えている。

他市とは違う児童や保護者がいるため、瑞穂町独自の在り方などを目指していくところは、皆さんに意見をいただきながら考えていくところだと思う。学童も放課後子ども教室も融合させて上手くできるのであれば、その方向に向かっていく意味があると思う。

(委員)

他の学区によると、学童と場所が離れているため、児童を集めて実施するということが難しいようだ。実施回数ができないというのが課題。

(事務局)

学童の先生に安全管理のために参加してもらったり、連携はとっている。たとえば2小など離れた場所にある場合、そこから学童の先生と一緒にいくといったことに対応している。

(会長)

最後に第4、5節に入りたい。

(事務局)

第4節、5節について説明。

(委員)

公園の遊具について、新しい遊具を設置する計画があるのであれば、これがいだろうと設置するのではなく、使う対象者にリサーチしてどんな遊具がほしいのかを聞いてから設置してもらいたい。そうすれば使われる遊具になるのではないかな。

(委員)

この件で公園係に聞きに行くと、学校のすぐ目の前である二本木公園が対象となっていた。子ども教室では大勢のこどもがおり、子どもの声を生でリアルに聞けるため、サンプルとしてアンケートを取ることもできるので、何かあれば使ってほしいと公園係に話した。

実際に子どもたちは、二本木公園が新しくなることを知らず、周知がされていない。計画段階から自分の公園、自分の事として考えることができ、自分たちの声が反映されたり、未来が変えられるいいチャンスとなる。子どもたちの声を吸い上げるためには放課後子ども教室も使ってほしいということも伝えた。

(会長)

これまでの公園づくりはどうしていたのか。

(課長)

既存の公園は特色を作っていくように動いている。意見のように、放課後子ども教室や近所の学校から聞いていただくというのは非常にいい方法だと思う。

(委員)

進捗状況等を逐一教えてもらい、周知することがあれば、放課後子ども教室で周知するので情報がほしいということも伝えた。

(課長)

前は提案が3つほどあり、貴重な意見として参考にすることになったが、それぞれの担当課長に話をしている。具体的に何か進むわけではないが、何かご意見等があれば担当課にしっかり伝えるので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

(3) 子ども・子育て会議スケジュールについて (予定)

○子ども子育て会議のスケジュールについて説明。

(会長)

続いて協議事項の3、子ども子育て会議のスケジュールについて。

(事務局)

今回は2月中旬を予定しており、ニーズ調査の集計報告の途中経過等も報告できると思う。現行の進捗状況管理と第2期子ども子育て支援事業計画に伴うニーズ調査集計報告も作成段階になるため、3月下旬にも1回開催したいと思っている。平成31年度の委員の改選後になるが、ニーズ調査結果による数量を踏まえ、平成32年度から5年間の第2期の支援事業計画を策定する段階であるため、10回程度を年間で見込んでいる。月1回程度を予定し、かつ現行の進捗状況管理をしていき、最終的には計画書を作成し平成32年度から管理を始めることになるので、会議回数を増やしている。

5 情報交換

○質疑応答。

(委員)

今日、健康課の研修に参加したが、ゆりかごステーションが相談業務や様々なところで行う親子向けの事業などの窓口になり、発信ができるような形にしたいという話があった。

どのような事業をやっているのか、子育てに関することが分かるようなものがあれば良いと思っていたが、今までなかった。保育園、幼稚園、子育て広場等を全部集約して窓口となるような形にしていくという話だったので、素晴らしいと思った。

(委員)

瑞穂町子育て応援ガイドブックはどこに配っているのか。

(事務局)

出産後に訪問をした家庭や出産後の赤ちゃんがいる家庭に訪問する段階で配

布し、ひばり、あすなろ児童館、福祉課窓口に設置している。2カ年で色々なところに配っていきたいということだった。

(委員)

様々な会館、コミュニティセンター、図書室等の公共施設に閲覧用があるが、各施設に配布することになっている。11月に配布予定。

(委員)

あくまで未就学向けのものか。

(委員)

18歳までのための本だが、今回は初めて母親になる人たちに焦点を絞り、表紙も小さめになっている。遊び場所や子育て広場はこのような所で実施しているので出かけてみないか、また誰かと繋がってもらえれば様々な支援がしやすくなるということで、福祉課と協力し民生委員も協力して作成した。児童館では自由に取りることができるように、幼児室に置いている。

(委員)

このガイドブックは非常に見やすく、特に妊娠中から誕生、その後どうなっていくかなどステージがわかりやすい。しかし、生まれた後に保健師が自宅を訪問時に配布するのでは、妊娠中のものはもう終わっているため、もったいないのではないか。

自分も妊娠中にこのような情報がほしかったという思いがあるので、もう少し早い段階に手にできる機会があったら良いと思う。

(委員)

どの場所に行けば同じ学年や年齢のお子さんと会える、というような形で紹介ページを入れてもらった。

(委員)

保健センターにも置いてあった。

(委員)

ひばりにも配布してある。

(委員)

乳児室の場合、未就学児がいないと入れないため、下駄箱前やあすなろ学童等にあれば未就学児以外でも入りやすいのではないか。遊ばせながらだったら中でも見るが、入らない人の場合は見るができない。

(会長)

アンケート内容について皆さんから様々な意見があり、可能な範囲で反映させていただくという形でいいだろうか。

期日もあるということで提案だが、調整していくのは難しいと思うが、こうい

	<p>う形で修正したというものを、対象者に送付するものと同じものを改めて送付してもらえると、委員の皆さんも納得できると思う。</p>
--	--

6 閉会